



# 廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

令和5年  
1月31日  
第9号



新しい年が始まり、1ヵ月が経ちました。気持ちを新たに今年も様々なことに挑戦する1年にいきましょう。1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」といわれており、3学期はとても忙しい時期となります。「もっと時間がほしいのに、日がどんどん過ぎていく。待つて欲しいのに行ってしまふ。」となつてしまわないうように、見通しをもち、計画的に、余裕をもつた3学期を過ごしていきましょう。



## 1月24日～30日は 全国学校給食週間でした

学校給食の意義や役割について理解を深め、学校給食の充実・発展を図るため、「全国学校給食週間」が実施されました。

### 学校給食で 郷土料理を味わおう！

小・中学校の給食には、地域の食材を使用した料理や、広島県や日本各地の郷土料理・行事食などが登場しました♪



### 「ひろしま給食」 100万食メニュー登場！

ひろしま給食推進プロジェクトの県民投票で選ばれた「ひろしま給食」100万食メニューが登場しました！今年の統一メニューは呉市の中学3年生が考えた「S:さっぱりD:どうぞG:がっつりとSDGsピュン」でした。



(1/12 宮島学校給食センター給食)

### 大野学校給食センターで 学校給食フェスタ開催！

1月29日(日)に、廿日市市教育委員会主催の「第2回大野学校給食センター学校給食フェスタ」を開催しました。減塩をテーマに、食育ミニ講座や調理実演、試食提供などを行いました。各給食施設の特色ある取組も紹介しました。

学校給食の分野から、市民全体の健康につながる食育情報を発信しました。



## 第2回廿日市市地域学校協働会議兼コミュニティ・スクール研修会

令和5年1月24日(火)に「第2回廿日市市地域学校協働会議兼コミュニティ・スクール研修会」を開催しました。

本市においては、令和5年度より市内全ての小・中学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールをスタートさせることとしています。そのため、地域の方や学校の関心も高く、今回の研修会には、多くの方が参加してくださいました。

研修会では、今年度より学校運営協議会を立ち上げ、コミュニティ・スクールをスタートさせた宮島中学校の梶原教頭先生が、取組事例の報告をしてください、今まで以上に「地域とともにある学校」であるために、どのように取り組んでいけばよいのかをお話いただきました。

また、NPO法人まちと学校のみらい代表理事・国立大学法人東京学芸大学理事でもあり、文部科学省CSマイスターの竹原和泉さんの講演では、「なぜ、学校と地域が連携協働するのか」という目的を再確認し、熟議におけるポイントなども教えていただき大変参考になりました。

そして、最後は、グループに分かれて、模擬熟議を行いました。活発に意見が交わされ、有意義な時間となりました。



実践報告(宮島中)



模擬熟議(発表)

## キャリア教育の充実に向けて

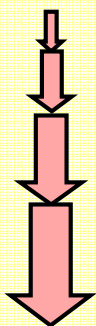
### 【自分事として考える仕事理解を！】

「将来の夢」を具体的に考える習慣をつけることが、児童生徒一人一人の仕事理解・進路選択・職業選択に繋がります。

世の中にある仕事が見えにくくなっている現代において、児童生徒に「仕事を知らせる」「仕事を学ばせる」必要性が増えており、キャリア・スタート・ウィーク（職場体験）もその1つです。

### 【児童生徒の心に響く情報を！】 児童生徒の ＜職業調べ＞ 興味・感動

- ・代表取締役の名前、本社所在地
- ・会社規模、支店の場所や数、資本金、従業員数、初任給や平均賃金
- ・取扱い商品・サービスや経営方針、取引先、地域貢献
- ・「あの自然災害の時に、こういう地域サービスをした」「安全な商品・サービスを提供するために、こんな努力や工夫をしている」といったエピソード



ただ、「調べる経験を積ませる」だけでなく「自分の事として考えさせる」「児童生徒本人の言葉で分析させる」そして「将来の選択をより確かなものにしていく」ことが重要です。

## 「学びの革新」の更なる推進

単元構想シートを活用して、授業づくりを各学校で研究してきました。

- 本質的な問い（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
- 単元を貫く問い
- 個別の問い（単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等）

を考えていく中で、学校から出てきた質問です。

「単元を貫く問い」はどのように設定すればよいのだろうか？



単元を貫く問いは「単元を通して児童生徒が考えを深めていく問い」です。教科等固有の「見方・考え方」を働かせながら、深く思考したり、学習活動に向かったりするような問いなので、学習指導要領が示していることを必ず確認しましょう。「1時間ごとの『個別の問い』」を積み重ね、単元のゴールで児童生徒が身に付けた力でどのような問いに対して答えを出せばよいか。」それを単元計画段階で、教師が明確に持っておきましょう。

今年度、もう1単元、単元構想シートをメモ帳代わりに授業を計画してみませんか！

## アテンション ぷり～ず !!

今年度、第90回全国書画展覧会で、廿日市中学校が「文部科学大臣賞 団体の部」を受賞しました！そこで、今月号では、廿日市中学校で取組を推進されている国語科の平山琴音教諭を紹介します。



平山教諭

平山先生を中心に、廿日市中学校では学年の発達段階に応じた「書写教育」に取り組んでいます。

- 1学年…点画が明確な楷書の特徴を意識し書くよう指導され、水黒板やインターネットでお手本の書き方が視覚的に理解できるよう工夫されています。
- 2学年…一つの課題についてポイントを絞り、1時間のねらいを達成することを目指し、着実に力をつけるようにされています。作品は学期末に掲示し、生徒同士や保護者の方からの評価につなげられています。
- 3学年…1・2年の基礎を基に、行書の特徴や作品全体のバランスを意識して書かせるよう指導されています。1枚の台紙に作品を貼り、1年間の成果が生徒自身で実感できるようにされています。

Q 指導の際に大切にされていることは？

「生徒自身が意欲的に課題に取り組めるようになるには、どうすればよいか」ということを常に意識しています。その一つが、全国書画展覧会に出品することです。また、書写教育で行いたいのは、「美しさ」ではなく、一人一人が字形のポイントを的確に押さえ、理解して書けているかということです。全国書画展覧会の課題は、教科書と同じ課題ということもあり、授業での成果を生徒に感じてもらいたいという気持ちで続けてきました。

Q 出品して手応えは？

出品すると、一人一人に賞状が授与されます。生徒達は、「うれしい」と素直な反応を見せてくれます。今回、文部科学大臣賞を受賞するにあたり、記念の大筆を学校へいただきました。校長室の前に飾っていると生徒達が触りに来ます。自分達で得た賞ですから。他のコンクールにもたくさん応募しています。成果が返ってくるので、生徒は「よし！」という感じで課題に取り組んでいます。その姿を見ていると、出品して良かったと、私も感じています。